



本州一ライムと竹の
SDGs 的循環サイクルの確立

さくさくファーム
代表 桑原 健一さん

今回の申請内容

「本州一ライム」と「竹のSDGs 的循環サイクルの確立」の2つのテーマを複合的にしています。

前者は国産ライムの生産量が低いことに着目し、ゆくゆくは江田島市の名産品になればとの思いから着想しました。

後者は、顕在化している放置竹林問題がそれほど注視されていないことの憂いもあり、処理と活用サイクルを確立すべく立案しました。

活動への思い

竹に特化してお話すると、竹は縦にも加速度的に伸びることから、元々生えていた木を弱らせ、生態系の多様化を失わせます。

また、昨今問題となっているイノシシによる獣害を助長している

す。竹林は隠れ家となり地下茎は食料となっています。

そのため、「農業用資材」「竹資材」「竹あかり」「炭素の固定による二酸化炭素の削減」を模索しつつ、「獣害減少」に寄与できればと思います。さらに放置竹林は、土砂崩れの危険性も内包しています。根の浅い竹が斜面に生えている箇所は地すべりを起こすことが知られています。弊害ばかりの放置竹林に対する解決策への思いが、今回の応募動機となっています。

皆さんに一言

「竹あかり」は今後、市民参加型のイベントに昇華するつもりです。ぜひお気軽にご参加ください。穴を開けるだけで素敵な照明を作ることが出来ますよ。



夏宵ひとつなぎ 2024
ひとつなぎの会
会長 中本 美保香さん

今回の申請内容

Umios Spa & Resortの前に広がる入鹿海岸の砂浜と、夕日景観を楽しむイベントを実施するため申請しました。

8月17日のイベントのスタートには、差別のない社会を求めて行動されているNPO法人「食べて語ろう会」の「ばっちゃん」こと中本忠子さんと尚汰さんに、「心の平和」をテーマにお話を伺いました。また、ボランティア学生の参加(23人)や店舗の充実(14店舗)に取り組みました。昨年好評だった打ち上げ花火は今年も行い、イベントへの参加者をより多くするために今年は入場無料としました。

活動への思い

日常の中では平和の大切さを実感することは少ないですが、「平和っていいな」と思える瞬間を共有し、子どもたちとともに楽しみながら平和の大切さを知る機会を提供したいと考えています。

皆さんに一言

「夏宵ひとつなぎ」というイベントは、毎年8月に行うイベントとして定着させたいと思っていますが、「ひとつなぎの会」としては、人と人が一つになって地域を活性化するまちづくりイベントを、いろいろな場面で実施していきたいと考えています。江田島市の魅力的な風景の中で、こんなイベントがあったらいいな、できたらいいなとお考えの方は、ぜひアイデアをお寄せください。



旧沖小プール花いっぱい運動
特定非営利活動法人沖美町地域再生会議
理事長 空久保 求さん

今回の申請内容

昨年から当該施設の賑わいづくりのため、ブルーベリー栽培を始めました。しかし、それだけではインパクトが弱いと考え、大プールには水中植物である「スイレン」を増やし、小プールには「カキツバタ」を植えて、花いっぱいプールとして、江田島市の新しい観光名所にしたいと考えています。

活動への思い

旧沖小プールは、まとまった敷地面積があり、日当たりもよく眺望も抜群で各種イベントをするには最適な場所だと考えています。ここを賑わいづくりの場として、例えば毎月マルシェの開催、ブルー

皆さんに一言

旧沖小学校は、地元の皆さまには思い出の場所であり、愛着もあると思います。この地を再生して地元の皆さまが気軽に集える場所にしたいと思っています。ぜひ皆さまのご利用を心からお待ち申し上げます。



どんどん緑化する
山羊と育む食べられる森の会
代表 河本 賢一さん

今回の申請内容・活動への思い

今回も昨年度に引き続き活動を行います。

当会は、鹿児島県の離島に実在する野生ヤギが生息する放置果樹園の状態をモデルにしています。このような野生果樹園に近づけるように、ヤギとニワトリを放して、多種類の種苗を無造作に植えています。

植物は本来自分で養分を探し当てて、自分で虫を払う能力を持っています。その力を引き出せる環境が理想です。生き物たちが元気に自立し共存できる農園作りは、土壌と地下水と海を浄化して未来の江田島市を豊かにするでしょう。

この自然果樹園作りのお手伝いに、全国から年間約70人の学生ボランティアに来てもらっています。来島者の1割は「またヤギに会いたい、

お世話になった方々に会いたい」と再び江田島市を訪れてくれます。

皆さんに一言

森作りという先の長いプロジェクトで、ヤギがローテーションでできる面積の果樹の森ができるのは、まだ10年、20年先のことでしょう。

しかし、多くの市民の皆さまのご理解と、学生ボランティアたちの献身的な作業により、4カ所、総面積約1ヘクタール余りに着手できました。心から感謝申し上げます。今年はさらなる農園拡張、スタッフと財源確保のために、自然果樹園作りと動物との共生農園の付加価値を高める啓蒙活動に力を注ぎたいと考えています。